



1 回目バルク乳検査の成績について

令和2年5～6月に実施した1回目のバルク乳検査（酪農生産性向上対策事業）では、採材等にご協力頂きありがとうございました。

47戸(49検体)で実施した検査の集計結果をお知らせします。

陽性農家 43%

黄色ブドウ球菌(SA)

伝染性乳房炎の原因菌

対策：SA排菌牛の淘汰や隔離、
最後搾乳、乾乳期治療の
徹底等

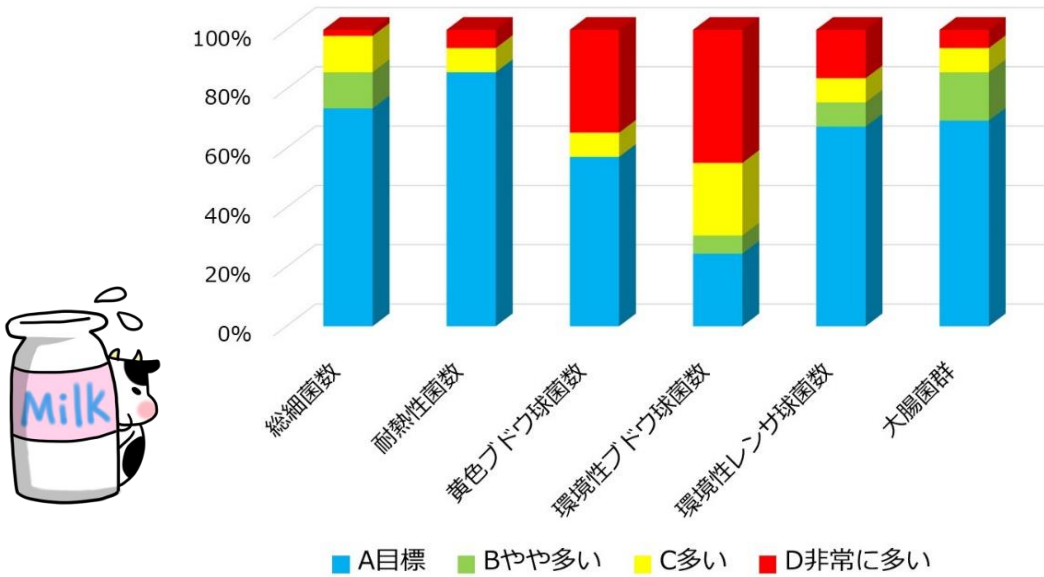
D ランク 45%

環境性ブドウ球菌

環境性乳房炎の原因菌

対策：乳頭清拭の適切な実施
搾乳手順の再確認
搾乳機器洗浄の再確認
牛床を乾燥させる等

各細菌数のランク別農家の割合



牛マイコプラズマ性乳房炎が、管内の農場で確認されています。

マイコプラズマによる乳房炎は、発生率は少ないものの、極めて強い伝染性があり、短期間のうちに牛群に広まる場合があることから、一度発生すると大きな被害をもたらします。

乳房炎牛が、短期間の間に急増する等、今までとは異なる乳房炎症状が確認された場合は、家畜保健衛生所に御相談ください。

バルク乳から黄色ブドウ球菌が検出されたり、体細胞数が高いなどの問題があった場合は、個体乳検査による感染牛の特定や搾乳立会等による問題点の検討も可能ですので、家畜保健衛生所までお問い合わせください。